

股関節とその周囲のスポーツ障害

股関節疾患の診断や治療において、X線、CTあるいはMRIを用いた従来の画像所見で診断し得る関節内の異常については多くの知見が積み上げられ発展を遂げてきた。しかし、股関節外に存在する異常については未だ診断が確立されていないのが現状である。特にスポーツ障害の診療にあたる際には疼痛の発生部位を的確に捉えて治療に結び付け、早期のスポーツ復帰を目指すことが求められる。つまり、股関節のスポーツ障害の診療には関節内病変の有無だけでなく、その他の股関節を構成する関節外組織の異常にも目を向けることが肝要である。

今回の特集では、まず股関節周囲のスポーツ障害の病態を理解する上で重要な骨盤・股関節のバイオメカニクスの最新知見について、広島国際大学の蒲田和芳先生に解説していただいた。次にアスリートに多い股関節周囲の疼痛を来す種々の病態として認知されている鼠径部痛症候群について、アントラーススポーツクリニックの山藤崇先生に診察法を中心に解説していただいた。また、股関節周囲の画像診断の最新知見およびエコーを用いた診察法について公立陶生病院の渡邊宣之先生に紹介していただいた。関節内病変については、見逃してはならない寛骨臼形成不全や大腿骨寛骨臼インピンジメントを中心とした診断法について北里大学の福島健介先生に、手術療法として股関節鏡視下手術を中心に浜松医科大学の星野裕信先生に解説していただいた。関節外病変の診断法については札幌医科大学の舘田健児先生に、治療法については内視鏡手術を含めて羊ヶ丘病院の加谷光規先生に解説していただいた。アスリートの股関節周囲疾患に対する診療や手術治療にご経験豊富な同愛記念病院の立石智彦先生および産業医科大学の畠山昌久先生・内田宗志先生には実際の症例を踏まえて解説していただいた。

今回の特集テーマは九州大学医学研究院整形外科教授 中島康晴先生のご発案であり、光栄にも企画立案に関わらせていただき、股関節周囲のスポーツ障害についてご造詣の深い先生方にご寄稿いただけたことは感謝の念に堪えない。本特集から、股関節の障害において関節内病変だけでなく関節外病変の関与を見極める重要性について実感していただければ幸いである。

股関節周囲のスポーツ障害に対するスポーツ医学の観点からの保存療法と股関節外科の観点からの手術療法のそれぞれの適応、有用性および問題点が整理され、より病態に即した診療アプローチが確立されることを願っている。

(山崎琢磨)